

詩人 木坂 涼



ご近所付合い

「図書館があるっていいな」とつくづくと思う。さまざま分野の本が借りられ、ちよっとした調べもののために立ち寄ることもでき、いっときだけ必要という場合にも大いに助かる。おとなの自転車に交じって、子どもの自転車も駐輪されているのを見れば、私にはそれが安定した「地域」とも映る。引越先を考えるとき、歩いて行ける範囲内に図書館があるかどうかは重要なチェックポイントだ。……はて、いつからそんなふうになったろう。大学

と しょ かん づう しん 書 館 通 信

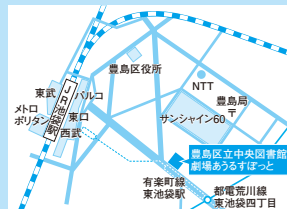


第29号 季刊(夏) 2013

トピックス

- 巻頭言 ご近所付合い 木坂 涼……………1ページ
- 図書館と私 駒込図書館運営専門員(司書) 高野あづ美……………2ページ
- 生涯の二冊 特定非営利活動法人みらい館大明 職員 加藤朋子……………2ページ
- 果鴨の「四季」 宇笠正純……………3ページ
- 図書館イベント情報・図書館カレンダー……………4ページ

発行 ● 豊島区立中央図書館
 東京都豊島区東池袋四一五一一
 ライオンアリーナビル四階・五階 〒170-8442
 電話 ● 03-3983-7861
 FAX ● 03-3983-9904
 ホームページ ● <http://www.library.toshima.tokyo.jp/>
 発行日 ● 平成25年7月



時代、下宿したアパートのそばに町の図書館があった。偶然だった。大学の図書室よりどれだけ足繁く通ったことだろう。それ以降、住まいと図書館の位置関係は意識されるようになった。小学生のとき、学校には図書室がなかった、と思っただけだった。中学校にも図書室はなかった、と思っただけだった。今回これを書くにあたり、どうにも記憶があやふやなので中高といっしょだった友人に聞いてみたのだ。すると私同様、「高校の図書館は覚えていた。でも小中のことがはつきり思い出せない。それだけ本を読まなかったのかな?」。

ああ、耳が痛い。私のこのあやふやな記憶の原因も本を読まなかったことがあるに違いないのだ。そ

新航路[27]

「一人は万人のために、万人は一人のために」

「一人は万人のために、万人は一人のために」皆さん、よくご存知の言葉ですよ。古代ゲルマン人の昔からの言い伝えと言われています。フランスの作家、アレクサンドル・デュマの『三銃士』(1844年)にも出てきます。また、1823年に英国のラグビー校で始まったとされるラグビーの精神にもこの言葉が使われています。

さて、利用者の皆さんから寄せられる声の一つとして「予約した資料はいつ来るの?」という質問があります。蔵書のことを考えると購入する本をやたらと増やすことができません。人気のある本などは当然順番が回ってくるのに時間がかかります。しかし、困るのは返却期限を過ぎても返さない人がい

ることです。電話や督促のハガキを出すことで大部分の方は返してくれるのですが、返してくれない人もいます。図書館でも手をこまねているわけではなく、未返却の方の自宅に出向き返却してくれるようお願いするなどの対応をしています。しかし、時には「なぜ自宅まで来たのか」と罵声を浴びることもあります。「本を借りに来ることはできるのに、返しには来られない」「借りた物を返さない」。これは少し自分勝手ではないでしょうか。

公共図書館は年齢、性別、所得に関係なく誰でも利用することができる施設です。「一人は万人のために、万人は一人のために」。次に読む人の事を考えてルールを守り、多くの方が気持ちよく円滑に図書館を利用できるようご協力ください。

Current & Encounter

打倒目標

豊島区図書館行政政策顧問 粕谷 一希

中山・東畑両先生が暮らしておられたころ、京都の坂本慶一という人が、面白い論壇時評を書き始めた。調べるとベルギーに留学し、専門は農業政策だという。いっぺん京都で会ってみようという研究室を訪ねると、坂本さんは開口一番、「私たちの打倒目標はこれです」と書棚を指差した。東畑精一の『日本農業の展開過程』である。「ハハハ、京都では農政ではないのだから」と悟った。「京都では農政などはなくお百姓の学問です」とキツパリ言い切った。ナルホド、学問は歴史や地域によって異なるのだな、ということが解ってきた。リッケルトのいう「自然科学と文化科学」が語るように、自然科学は普遍妥当性を狙うが、文化科学は唯一限りの事実の価値を尊重するものなのだ。

ただ歴史ではなく地域性(風土性)が尊重されるべきなのだ。これまで私は哲学や歴史や文学の価値を中心に考えてきたが、農業という専門でもいえることなのだ。非常に面白いテーマを教えられて興奮してしまっただけで、柳田国男、東畑精一の発見した農政学は、首都の発想であって、首都ではない地域では農政という考え方がなじまない。「我々はお百姓という相手に考えるだけです」と坂本慶一さんは云い切った。

哲学や歴史・文学の世界では、党派性や系統(スクール)性が大切であり、それは西田幾多郎の周辺、原勝郎、大槻言海などの周辺で著しいが、東京では個人・個性が大切にされ、どうもスクールになっない。そのことはノーベル賞などの世界もあることで、東京では仲間ができない。

今西錦司さんのモンキー研究やスミワケ理論、梅棹忠夫の生態学などにもいえることだろう。中尾佐助の栽培植物にもいえることだろう。我々は落ち着いて比較という現実を考えてみるべきだと思う。個々の対立をあまり過大視すべきではあるまい。

(坂本慶一『日本農業の再生』中公新書)

一九五八年、埼玉県生まれ。和光大学人文学部卒。詩集『ツツツと(沖積舎)で現代詩花椿賞。絵本『のぼし』で『理研社』、『翻訳絵本』で『せいたい』で『フレーベル館』など多数。池袋図書館で読み聞かせも行っている。

生涯の一冊
(28)

書名：「ハッピーバースデー」
(文芸書版)
作者：青木和雄、吉富多美
発行者：金の星社
発行年月：2005年4月



特定非営利活動法人みらい館大明 職員
加藤とも 加藤とも

『ハッピーバースデー』
一昨年亡くなった祖母は、口は悪かったですがかぶくよかに笑う表情豊かな人でした。
祖母は聴覚障害者でしたが、野菜をお裾分けするほど近所付き合いの良い人で、そんな祖母のことが私は大好きでした。
小学生時代にスイミングスクールに通う私にいつも持たせてくれた腰飾のおにぎりの塩加減は今でも天下第一品だと思っています。
共働きだった私の家に、鍵っ子制度が存在しなかったのも祖母のおかげ。学校から帰ってくるのと大概、畑いじりをして祖母を真似ては草取りをしていたことも懐かしく思い出されます。地平線が見えるほどの

田園風景に囲まれ、祖母に守られながらすくすく育った私も、今はもう27歳になりました。
今、思い返してみても、本当に幸せな子ども時代を過ごしたと思います。
そんな、聴覚障害者の祖母との会話はもっぱら「手記」と、口の動き。それが、当たり前。だったので苦労はありませんでした。
しかし、祖母との話がヒートアップして口論になってくると、祖母は目を閉じてしまうことがありました。それは、会話をシャットダウンしてしまう行為ですが、同時に祖母という人考えさせられる機会でもありました。

「人を思いやる」というのは口でいうほどたやすくなく、時に残酷なことをいってしまうこともあります。目を閉じた祖母を見て、「しまった。言い過ぎた・・・」

と、ハツとすることも度々ありました。
『ハッピーバースデー』は、主人公と一緒に、人との関わり、や相手の「人生」を考えさせられる作品です。声が出なくなってきた主人公が、祖父母との田舎生活を経て、声と自分を取り戻してからの力強さは爽快感さえ感じます。
祖母が体調を崩し始めたのは私が専門学校生の頃。ちょうどお正月で実家に帰省している最中でした。朝早くに事態に逸早く気が付いたのは私で、急いで母を起しました。そんな時に出会った本なので、作中に出てくる祖父への愛しさが祖母と重なり涙が止まらなくなりました。

今でも、読み返すと心が暖かくなるこの作品は、祖母を思い出させてくれるそんな生涯の一冊です。

図書館と私 16

駒込図書館運営専門員(司書)
高野 あづ美

図書館という職場

大学を卒業してすぐに図書館に就職した私は、初日に元気いっぱい「児童図書館員になりたいです!」と宣言しました。新人らしく自分の夢をおおざっぱに言ってみただけだったのですが、翌日からさっそく、「読んでおくべき児童書」が定期的に(かなりの頻度で)机に置かれるようになりました。それなりの本好きを自認していた私でしたが、読んだことはおろか、聞いたこともないタイトルもたくさんあり、毎日カバンにたくさん本を詰め込んで通勤していました。あんなに本を読んだ時期は、後にも先にもなかったと思います。
またある時は、机上にばらりと伝票が1枚置かれていて、先輩から「発注しておいたから読むのよ。」とお言葉。もちろん自腹です。ファンタジー論や児童図書館論など吟味された少々高めの本ばかり、2~3万円分はあったでしょうか。お財布にはだいぶ痛かったのですが、それでも反発する気持ちよりも、先輩の教養の深さに圧倒される思いの方が強かったのを覚えています。インターネットなどな

かった時代、知識と読書量が勝負でしたから、皆さん本当にいろいろなことをご存知でした。遊びにもよく連れて行ってもらいましたが、多趣味な人が多く、幸せな新人時代を送らせてもらったと思います。
さて、長いブランクを経て図書館の世界にまた戻ってきて、今年で9年目になります。図書館も、図書館を取り巻く環境も、当時とは大きく変わりました。でも、今も変わらないと思うことが1つあります。それは、この職場には好奇心の旺盛な人が本当に多いということ。年齢の上下に関係なく、ここには私がまだ読んでいない本をたくさん読んでいる人、私が知らないことを知っている人が多いです。相変わらず感心してばかりの自分は情けない限りですが、何だか得をしたような幸せな気分になって、飽きることがありません。そうして得た知識を図書館を利用する皆さんのお役に少しでも立てていけたら、と思っています。

～おたよりを募集します～

みなさんが読んだ本や図書館にまつわるエピソードを募集します。
たくさんのご応募をお待ちしております。

◆募集内容 ※400字以内

- 紹介したい本とその理由
(書名、著者名、出版社、出版年等もお書きください)
- 図書館にまつわるエピソード
- 本誌に対する感想、ご意見
(○○が面白かった、□□について取り上げてほしい) など

◆応募方法

- 封書またはメールにてご応募ください。
メールの場合は、タイトルに「図書館通信おたより係」とご記入ください。
- 氏名、年齢、住所、電話番号を明記してください。
- 匿名希望の方はペンネームをお書き添えください。
- スペースの都合上、趣旨を変えない範囲で原稿を加筆・修正させていただくことがあります。
- 掲載させていただいた方には粗品を進呈します。
- お送りいただいた原稿は返却できませんのでご了承ください。
- 採否に関するお問い合わせには応じられません。

【あて先】

〒170-8442
豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル5階
豊島区立中央図書館 図書館通信おたより係
E-Mail: A0027900@city.toshima.lg.jp



鶯の「四季」

第2回 涼風か情熱か、楽しい夏の花木 月刊「盆栽」誌の主幹・小林憲雄氏、 昭和2年、伊藤政武の墓石を発見!

宇埜 まさずみ
正純

<著者プロフィール>

庭園、造園、盆栽など植物関係の図書雑誌の編集、出版に携わる。現在、日本盆栽協会発行、月刊「盆栽春秋」に執筆中。

「鶯百選」2004年7月号切り絵

涼風呼ぶ夏の花木
6月初めはサツキ。5月のバラに負けないほど多彩で上野公園の「さつきフェスティバル」は圧巻。山手線駒込・巣鴨駅も見事である。しかし、夏の花木は少ない。私の専門の盆栽からは、6月はザクロ、アジサイ。7月はネムノキ、ナツツバキ。8月はサルズベリ、納涼盆栽展の花となる。ネムノキとサルズベリは私の好きな樹種であるが、これを花物盆栽として仕上げるのは難しい。サルズベリは花が終つたら枝元二節で剪定すると次に伸びた枝に花をつける。花期が長く漢名で「百日紅」という。日本のものでないが同種のシマサルズベリの林が神代植物園にある。高木で幹の縞模様が美しい。鶯界隈も庭木が多く、フヨウ、ムクゲ、キョウチクトウ、ノウゼンカズラ、クチナシなどが楽しめる。近年地蔵通りでは夏の風物詩「あさがお市」も開かれて賑わっている。
今号は花の話はさておき、興味ある別の話を語りたい。

伊藤政武の墓、発見秘話

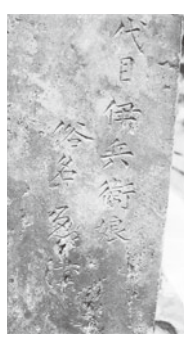
大正9年(1920) 創刊の盆栽専門誌、月刊「盆栽」の主幹・小林憲雄氏は「江戸一番の植木屋、園芸家といわれた伊藤伊兵衛政武の墓石が墓がないはずがない」と、その墓石探しにのり出した。大正の末のことで、政武の死後60数年が経過している。

「私は其昔これを探索したが、一向明確に知る事を得なかった、然るに、古事に明い平尾彦太郎氏(萬芳園々主)は、染井には西福寺がある。恐らくその寺であらうとの指示に依つて種々の経緯を経て遂に西福寺墓域にこの一家の土に埋つた墓を探し出したのは今から十六年前(昭和2年)の事であつた」と、小林氏は「盆栽」誌昭和18年10月号に記している。墓の発見まで、なんと30年を費しての快挙である。この墓石の保存をお願いしたところ、住職が「私が生きている間は片付けられない」と引き受けてくれたという。

◆あれから16年。「墓は無事だろうか」と小林氏は同志の平尾氏、清水香雲氏(清大園)と計つて、永代供養料100円を納め、この旨を墓の右



政武の墓石正面。宝暦七丑年十月二日・樹仙浄観信士
昭和18年10月2日、永代供養料を納めたこと、3人の名前も墓の右側面に刻んだ
昭和2年、小林氏が西福寺墓域で発見した政武の墓石。埋つていて泥だらけの状態



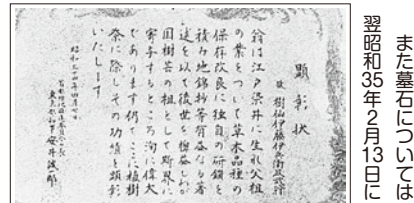
九代目伊兵衛娘 俗名糸津とあり、伊兵衛家最後の記録

側面に記し、三人の氏名を刻んだのである。これがあつて現在も三墓の墓が安置されている。昭和18年10月2日のことである。
発見した墓石の一つに「明治十四年、松室眞壽信女。九代目伊兵衛娘、俗名糸津」とあり、これが伊兵衛家記録の最後である。

政武の顕彰と墓石の史跡指定

小林憲雄氏が政武の墓石を発見してから30余年を経た昭和34年4月7日、緑の週間の植樹祭式典で、故伊藤伊兵衛政武翁に「顕彰状」が贈られた。「わが国樹芸の祖」として顕彰したもので、首都緑化推進委員会々長・安井誠一郎東京都知事より贈られた。

ただ、伊藤家が絶えているので「顕彰状」を誰に渡すかが問題となり、「結局、菩提寺である西福寺の有連住職が受領し保管することになった」と雑誌「盆栽」昭和34年5月号に記されている。そこで次の昌成住職夫人の美代子さんにその有無を伺ったが、「まったく知らない」とのこと。現存してないと思われる。



昭和34年4月7日、緑の週間植樹祭式典で樹仙伊藤伊兵衛政武翁に贈られた「顕彰状」。なんと死後202年目の顕彰である

また墓石については、その重要性が認められ、翌昭和35年2月13日に「東京都指定史跡」として指定されたのである。ここに、平尾、清水、小林三氏の努力は実つたのである。現在は西福寺の墓地に三墓とも安置され、東京都教育委員会の解説板が添えられている。

鶯めぐりにこの一冊!



「ふらり中山道鶯 歴史・文学散歩」(伊藤榮洪著)を発行しました。

鶯地区とその周辺の歴史文化を網羅し、附録として染井霊園の案内図も付いています。散歩に便利のように、ポケットに入る小型サイズにまとめました。この本を片手に、歴史ある中山道・鶯の地をめぐってみませんか。

- 販売価格 600円
- 販売場所 区立図書館(7館)、行政情報コーナー、郷土資料館、雑司が谷案内処

「ふらり雑司が谷 文学散歩」もあります。こちらは500円。

豊島区子どもの読書に関する講習会

「子どもの心に灯をともしわらべうた」

絵本の読み聞かせや人と人をつなぐ遊びとして歌い継がれてきたわらべうたを子どもたちに伝えていくための方法や目的等を、たのしく実践しつつお話していただきます。


- (1) 日時 平成25年7月23日(火) 午前10時30分～12時30分
- (2) 会場 あうるすぽっと 会議室B (豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル3階 ※中央図書館と同じ建物内です)
- (3) 講師 落合 美知子(おちあい みちこ)氏 新潟県に生まれる。1968年より図書館司書を経て、東京都をはじめ各地で子ども文庫やおはなし会を創設。子どもと本との橋渡しを行い、講演活動を展開している。現在、特に絵本やわらべうたを取り入れた親子講座や図書館関係の養成講座、保育講座に力を入れている。「おはなしとおながくのちいさいおうち」主宰。大学、出版社等の非常勤講師。伊藤忠子ども文庫功労賞(2003年)
- 著書 「いい家庭にはものがたりが生まれる」「子どもの心に灯をともしわらべうた -実践と理論-」(エイデル研究所)等
- (4) 募集人数 70名
- (5) 対象 豊島区内の教育・福祉施設などで読み聞かせボランティアをしている方。また、子どもたちに向けた読み聞かせに関心のある豊島区民の方。
- (6) 申し込み方法 平成25年6月25日(火) 午前10時より中央図書館カウンターに直接または電話で申し込み(先着順に受講者決定。定員になり次第締め切ります。)
- (7) 問い合わせ先 豊島区立中央図書館 児童・YAグループ 電話 03-3983-7861(代)

図書館イベント情報

◆児童・あかちゃんおはなし会

毎週、おはなし会を開催し本の読み聞かせなどイベントを行っています。遊びに来てくださいな。

- 各図書館の連絡先
- 中央図書館 3983-7861
 - 池袋図書館 3985-7981
 - 駒込図書館 3940-5751
 - 目白図書館 3950-7121
 - 巣鴨図書館 3910-3608
 - 千早図書館 3955-8361
 - 上池袋図書館 3940-1779
 - 雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	7月	8月	9月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時	★7日・おはなしこうさく会 午後2時 ★20日・豊島岡女子学園中学高等学校によるおはなし会 午後2時 ★29日・点字教室 午前10時30分※	★4日・夏休みこうさく会 午後2時 ★20日・科学こうさく会 午前10時※ 「アモンノ海のレプリカづくり」 対象：小学生	★1日・おはなしこうさくかい 午後2時 ★28日・豊島岡女子学園中学高等学校によるおはなし会 午後2時 ★29日・ボランティアによるおはなし会 午後2時 (集鶴親子読書会)
駒込図書館 (駒込地域文化創造館)	土曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	★20日・こどもえいがかい 午後3時 「てんまのとらやん」(17分) 「うかれバイオリン」(20分)	★10日・こうさくかい 午後3時 「スライム」 ★17日・こうさくかい 午後3時 「てづくりうちわ」 ★24日・こうさくかい 午後3時 「きらきらプラネタリウム」	
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時	★3日・ほんのじかん セブンスペシャル 午後3時 ★24日・ほんのじかん 工作 午後3時	★14日・ほんのじかん こわいおはなしスペシャル 午後3時 ★21日・ほんのじかん 工作 午後3時 ★28日・ほんのじかん スライド 午後3時	★18日・ほんのじかん ビッグブック 午後3時
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※	★3日・さくらんぼおはなしかいーたなばたスペシャルー 午後3時※ ★24日・さくらんぼえいがかい 午後3時※ 「かんぱれスイミー」(26分) 「ミッキーマウスのゆかいな船長さん」(8分)	★7日・さくらんぼこうさくかい 午後3時※ 「スライムを作ろう」 ★21日・さくらんぼおはなしかい 「こわいおはなしスペシャルー 午後3時※ ★28日・さくらんぼえいがかい 午後3時※ 「ムーミン 消えないおぼけ」(24分)	★25日・さくらんぼえいがかい 午後3時※ 「欲張りな犬(イソップ物語)」(12分) 「ドナルドダックとかわい子りす」(9分)
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時30分	第1水曜日 午前11時 あかちゃんたんぼ	★27日・たんぼえいがかいスペシャル 午後2時30分 「あしたふたの日ぶたじかん」(40分)	★24日・たんぼえいがかい 午後2時30分 「ムーミン落ちてきた星の子」(25分)	★28日・たんぼえいがかい 午後2時30分 「うかれバイオリン」(20分)
目白図書館 地下区民集会室	水曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	★24日・かきくけこうさくかい 午後3時	★21日・あいうえおはなしかい 「こわいおはなしスペシャルー 午後3時	★25日・科学あそび 午後3時
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分	★24日・ほんとこわいおはなしかい夏休みスペシャル 午後3時	毎週水曜日に2回(午前・午後)、おはなし会を開催しています。	

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

◆“平和について考えよう”～図書館 平和普及事業のご案内～

夏休み中に「平和」をテーマとした図書の展示や映画会、おはなし会などを開催します。

館名	実施日及び実施期間	行事名	場所	内容
中央図書館	7/27(土)～8/22(木)	平和について考えよう	児童特集コーナー	児童書展示
駒込図書館	7/27(土)～8/22(木)	なぜあんなに平和を～ ～みんなで考える平和～	児童室	児童書展示
巣鴨図書館	7/27(土)～8/22(木)	平和について考えよう	特集コーナー	平和に関する一般書 児童書の合同展示
上池袋図書館	①7/27(土)～8/22(木) ②8/14(水) 15時～	平和について考えよう	①1階 ②地下ホール	①一般書・児童書展示 ②映画会「火垂るの墓」(88分)
池袋図書館	7/27(土)～8/22(木)	平和について考えよう	1階特集コーナー	一般書・児童書の合同展示
目白図書館	①7/27(土)～8/22(木) ②8/14(水) 15時～	平和について考えよう	①児童特集コーナー ②集会室	①児童書展示 ②おはなし会
千早図書館	①7/27(土)～8/22(木) ②8/7(水) 15時30分～	平和について考えよう	①児童特集コーナー ②視聴覚室	①児童書展示 ②おはなし会 (絵本の読み聞かせなど)

○千早図書館友の会主催「千早進歩自由夢月例会」

※7月例会は申込不要。定員はありません。9月例会は往復はがきによる事前申込制。

◆千早進歩自由夢(7月例会) 武井武雄作品に囲まれたお断会「イルワな時間」

日程 7月13日(土) ●展示 10時から16時(入出自由)
●お断会 ①11時から ②13時から ③15時から(各30分間)
※上記の時間以外にも随時リクエストOK!!

会場 千早図書館 2階 視聴覚室
作り手 おかもとよ氏
内容 大人も子どもと一緒に、池袋ゆかりの武井武雄氏を十分に味わい楽しんでいた会です。キッズブックなどの子ども向けの絵本だけでなく、武井氏自筆のお断による大人向けの絵本や「刊本作品」(一部)などの限定本も多数展示。ご自由にお手にとって読んでいただけます。[オマケ]・懐かし童謡を音響機で聴けます(随時)
・幼少絵巻誌「ココロモノク」名作選 全巻巻も展示します

武井武雄 明治27年生まれ。大正10年「子供之友」に絵を描いたことをきっかけに、子どもの魂に訴える絵を指針に童画を描き続ける。ライフワーク「刊本作品」は、版画・印伝・書せ木・ゴブラン・友禅染などの用いられない手法で作られた美術作品と呼ぶべきで、139冊を89歳で書くまで作り続け。

おかもとよ氏 「イルワな時間」をライフワークとして7年目。武井武雄氏の素晴らしい絵を伝えるために、あちこちにお断会を出前中。別名「じゃんぼ」で街頭紙芝居をやっている。

◆千早進歩自由夢(9月例会) バイオリンコンサート「バイオリン二重奏の世界」

日程 9月14日(土) ●第一部「親子のためのバイオリン二重奏」
14時から14時30分(開場:13時30分)
●第二部「二人の世界」
14時40分から16時(開場:第一部終了後)

会場 千早図書館 2階 視聴覚室
演奏 バイオリニスト・佐藤美代子氏
バイオリニスト・三好明子氏
内容 第一部は「座の上のポニー」などのアニメソングを中心に、お子さまに親しみやすい曲を中心に構成。第二部は「美しき天然」や「メヌエット」(ボッケリーニ)などの名曲を中心に構成。二重奏だけでなく、佐藤美代子氏による独奏もありますので期待ください。
※第一部・第二部ともに、コンサート終了後に「バイオリン演奏体験」の時間もあります。

佐藤美代子氏 東京藝術大学音楽科入学後、パリ・コンセルヴァトワール卒業。武蔵野音楽大学非常勤講師、東京リリス管・コンサートミストレス、フェリス学院大学音楽学部教授を歴任。
三好明子氏 武蔵野音楽大学大学院卒業。アンサンブル・ヴィエニャ主宰。日本・イェール・ニューヨーク交響楽団を一年定期退団。

定員 第一部・第二部それぞれ50名(往復はがきによる事前申込制。応募者多数の場合は抽選)
申込方法 往復はがきの往復裏面に「バイオリンコンサート申込」と大きく記入の上、「第一部・第二部の希望(両方でも可)」「参加希望人数」「代表者の住所・氏名・電話番号」を記入して、下記宛先までお送りください。
〒171-0044 豊島区千早2-44-2 豊島区立千早図書館
募集開始は7月2日(火)、締切は8月31日(土)必着。
参加の可否については、9月上旬に返復はがきにてお知らせいたします。

先日、S.L.ばんえつ物語号に乗りました。「ガタン、ゴトン」とゆれるリズムが心地よく、時間に追われずゆっくり過ぎ(すこ)とって大事だなと思えました。でも、早速締切に追われています。段取りをつけたいです。(恩)

図書館タシテイ

図書館クイズに挑戦して、
きみも図書館タシテイになろう!
図書館にあるたくさんの本の中から
答えを探すクイズ形式の催しです。

日時：7月27日(土)～8月4日(日)

開催～午後4時30分

対象：小学生 定員：なし

中央図書館：「こわいゾ?! 怪談としゃかん」

駒込図書館：「としゃかん島のナゾをとけ!!」

巣鴨図書館：「としゃかんタウンをさぐれ!!」

上池袋図書館：「大航海へのりだそう!

～としゃかんの海へ～

池袋図書館：「暗号をとけ!!」

目白図書館：「スペースアドベンチャー」

千早図書館：「としゃかん城のみみつ

～ぬきあし さしあし のびあしー」

詳細は各館へお問い合わせください。

○は土日祝は休館日	中央図書館											駒込・巣鴨・上池袋・池袋・目白・千早図書館											雑司が谷図書貸出コーナー										
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土												
7月	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬												
8月	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩												
9月	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦												

図書館カレンダー